

平成30年度 小笠原村立母島小中学校 授業改善推進プラン 全体計画図

・日本国憲法
 ・教育基本法
 ・学習指導要領
 ・東京都教育目標
 ・小笠原村教育目標
 ・小笠原村教育ビジョン(第2次)

母島小中学校教育目標
 母島を誇りに思い、共によりよい社会を築くことのできる人間を目指し、自ら困難を乗り越え、思いやりをもって心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成を図る。
 (1) 意欲的に学ぶ児童生徒
 (2) 自らきたえる児童生徒
 (3) 社会のために尽くす児童生徒

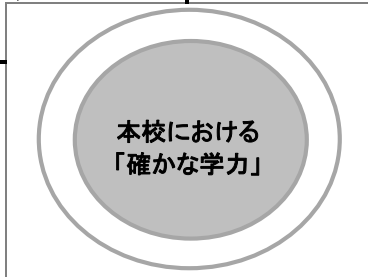
児童生徒の学びの実態
 ・落ち着いた学習に取り組んでいる。
 ・助言を受け入れて伸びやすい。
児童生徒の学びの課題
 【小学校】学習意欲は低くはないが、既習の知識を活用して新しいものに挑戦しようとする意識に課題がある。
 【中学校】言われたことはやろうとするが、現状のままで満足してしまう傾向があり、筋道を考えて目標に向かってより良い取り組みを行うようとする意識に課題がある。

各教科の指導の重点
 ・主体的に学習課題に取り組む意欲や態度を育み、基礎・基本を定着させる。
 ・(小)生きる力を育むことを目指し、自ら学び、考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の定着を図る。
 ・(中)基礎的・基本的な内容の定着を図り、柔軟な思考力や豊かな想像力、表現力を育成する。

学校経営方針
【学力向上に関わる要点】
 ○授業を教育活動の中心に据えて、全ての児童生徒に「確かな学力」を定着させる。
 ○児童生徒一人一人の個性や能力を踏まえ、さらにそれを伸長する教育活動を充実させる。
 ○義務教育9年間で子供の成長を考える「小中一体の学校運営」という理念・方法で社会人としての基礎・基本を確実に身に付けさせる。

特別活動の指導の重点
 思いやりの心をもって協力し合い、よりよい生活を築こうとする意欲や態度を育てる。
 ○学級活動
 (小)望ましい人間関係の育成や、健康で安全な生活態度を育成する。
 (中)望ましい生活や人間関係を築く。
 ○児童会活動(小)・生徒会活動(中)
 (小)異なる学年や男女が協力して、学校生活を充実させようとする意識を育てる。
 (中)自発的、自治的な活動を通し、学校生活の充実や改善及び向上を図る。また、ベルマーク活動、赤い羽根募金やユニセフ募金等のボランティア活動を通して、奉仕の精神の自覚を育てる。
 ○学校行事
 (小)体験的な活動を通して、自立的態度、心身の健康、協力、責任、公德心、勤労、公共の精神などの道徳性の育成を図る。
 (中)体験的な諸行事を通し、思いやりの心、奉仕の精神、公共の福祉、心身の健康、協力、責任、公德心、勤労などの道徳性の育成を図る。

道徳教育の指導の重点
 ・自ら考え、判断し、よりよく生きようとする意欲や態度を養う。
 ・教育活動全体を通じて、相手の立場に立って考え行動する思いやりの心と、人間尊重の精神を育てる。
 ・体験学習を生かし、道徳的心情を豊かにし、正しく判断し、勇気をもって実行し、困難に屈せず、最後までやり通す道徳的実践力を養う。
 ・郷土や学校をよりよくしていくこととする郷土愛や愛校心を育むために、島や学校の歴史や伝統を振り返り、そこに関わってきた人たちの思いに触れる。
 ・道徳教育推進教師を中心として全体計画と指導計画に基づき、指導の充実を図るとともに、全教職員が計画的に道徳授業を推進する。
 ・道徳授業地区公開講座の実施を通し、家庭や地域との連携を図る。



総合的な学習の時間における指導の重点
 ・地域の自然や社会に進んでかかわりながら、自ら課題をつかみ、追究し、考えを深めたり実践したりしようとする意欲や態度を育てる。
 ・地域の自然や社会の人々についての探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、学び、考え、よりよく問題を解決していく資質や能力を身に付ける。
 ・問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を身に付け、自己の在り方や生き方を考えられる。
 ・人との関わり合いを大切にしながら、自らを律し、思いやる心や感動する心など、豊かな人間性を育てる。
 ・人との関わり合いを通して学びを深め、もの考え方を身に付けるとともに、自らの意見や考えを適切に伝えることができるコミュニケーション能力を養う。
 ・外国語(英語)に親しむとともに、外国の文化や考え方にふれ、世界の国々の文化に対する関心や理解を深めさせる。

- ① 基礎的基本的な知識・技能
- ② 学んだ知識や技能を活用するために必要な思考力・判断力・表現力
- ③ 主体的に学習に取り組む態度
- ④ 様々な問題に積極的に立ち向かい、協働的に解決する力

生活指導の重点
 ・基本的な生活習慣を確立する。
 ・相手を思いやる気持ちを育てる。
 ・協力して物事を解決していくこととする意識を養う。
 ・個々に応じた指導を心がける。
 ・自立をめざし、目標をもたせ、生き生きとした学校生活を送らせる。
 ・規範意識を育てる。
 ・生活指導上の内規を定め自立的態度の育成を図る。
 ・「学びのスタンダード」を活用した生活指導を行う。

進路指導の重点
 ・将来に対する夢や希望をもち、各々の目標に向かって自ら努力しようとする態度を育てる。
 ・すべての教育活動を通して、児童生徒一人一人の個性を伸ばすことを図る。
 ・日々の活動を通し、成就感・達成感を味わわせ、学校生活への意欲の向上を図る。
 ・望ましい職業観や勤労観を育成するとともに、主体的に進路を選択する力を養う。
 ・自ら困難を乗り越え、成長していく強い意志を育てる。



授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	学習指導の工夫	評価・評定の工夫	校内における研究や研修の工夫
・小中一体型の教育を視野に入れた教育課程の編成 ・基礎的、基本的な内容を確実に定着させるための授業時数の確保 ・TT指導が可能な時間割の作成 ・計算技能や漢字基礎、思考力の向上を図るペーシクタイムおよび漢字チャレンジの継続的な実施 ・思考力チャレンジの実施 ・放課後や長期休業中の補習教室の実施	・国・都・村の各学力調査の結果分析、課題把握に基づいた授業改善推進プランの作成 ・関心・意欲を高め、学びを深める体験的活動の設定 ・問題解決型の学習を基盤とした指導の充実 ・少人数を生かした学習活動や形態、展開の工夫 ・児童生徒相互の学び合いを促す工夫 ・ICTの積極的な活用 ・各授業での言語活動の一層の充実 ・地域の環境施設、人材の積極的な活用	・評価計画の活用と一層の改善 ・学習活動における的確な評価と個に応じた指導 ・多様な方法による評価 ・児童・生徒による授業評価、アンケートの実施	・9年間を通じて確かな学力を育てるために、小中全教員による校内研究の推進 ・教員同士の授業観察や情報交換の推進 ・島しょ研修会の積極的な活用 ・教職員全員の夏季研修会への参加と、研修報告会の実施による情報や資料の共有化